

千年の蓄積はおろそかにはできません。そうしたことを深く考えさせられる講演会で、新入生向けの行事として大変に意義深いものでした。

酒井邦嘉先生は言語脳科学者。大学院総合文化研究科・教養学部教授。言語と脳という文系・理系を横断する研究の第一人者で、多数の著書もお書きになっています。多くの新入生に加えて、駒場友の会の会員・会友も参加しました。

左の写真にあるような脳の働きについての説明とあわせて、理解するとはどういうことか？、理解することと分かることとの違い、「聞く・読む」と「話す・書く」の働きなど、興味深いお話の連続で参加者一同夢中になって講演を聞きました。



新入生歓迎特別講演会

駒場友の会では新しい学生を迎えるイベントとして「新入生歓迎特別講演会」を毎年四月に開催しています。今年には第五回となります。酒井邦嘉先生による「脳を創る読書とは」と題して四月一五日（月）に新しい教室棟21KOMCEE地下一階レクチャーホールで開催しました。

本を読む活動には、適度に情報が少ないという特色があり、その分想像力が必要になる、本を読むことを想像を働かせる脳の力を鍛えることが出来るという講演の趣旨は見事に説得的でした。

私たちは情報を得るという意味ではインターネットやメールで用が足りる生活をしていて、本を読むという習慣からついつい離れてしまいがちですが、紙に書かれたものを読むという人類二